



テーマ：商業販売統計（2006年11月）

発表日：2006年12月27日（水）

～個人消費は斑模様～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位：%)

	商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店		百貨店		スーパー		コンビニ販売額	
	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	既存店 前年比	前年比	既存店 前年比	
05	1月	3.8	3.5	4.3	1.9	2.4	3.6	1.3	▲ 1.3	0.7	▲ 2.6	1.3	▲ 1.9	
	2月	2.2	▲ 2.2	3.8	▲ 0.6	▲ 2.7	▲ 2.2	▲ 4.2	▲ 6.7	▲ 7.2	▲ 6.4	▲ 1.9	▲ 2.8	
	3月	0.7	▲ 3.6	0.9	▲ 5.1	0.3	▲ 0.5	▲ 2.5	▲ 4.5	▲ 3.2	▲ 5.5	1.9	▲ 1.5	
	4月	3.1	4.9	2.9	5.8	3.8	2.3	▲ 0.6	▲ 2.4	▲ 0.5	▲ 3.6	2.3	▲ 1.2	
	5月	3.1	▲ 2.1	3.2	▲ 2.0	2.9	▲ 1.0	▲ 0.7	▲ 3.1	▲ 1.4	▲ 4.2	1.3	▲ 2.0	
	6月	1.9	1.1	1.6	1.2	3.0	0.0	▲ 0.1	▲ 1.9	0.7	▲ 3.6	2.2	▲ 1.4	
	7月	0.3	0.6	0.2	1.2	0.6	▲ 1.4	▲ 0.4	▲ 1.7	0.6	▲ 3.4	▲ 1.1	▲ 4.9	
	8月	4.7	1.3	5.7	1.6	1.6	0.7	▲ 1.3	▲ 2.9	▲ 1.1	▲ 4.0	2.0	▲ 1.4	
	9月	1.5	▲ 2.7	1.8	▲ 3.4	0.2	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 2.8	▲ 0.2	▲ 4.5	3.5	▲ 0.3	
	10月	2.2	2.6	3.0	3.4	▲ 0.4	▲ 0.3	▲ 1.9	▲ 3.4	▲ 0.4	▲ 5.4	0.5	▲ 3.0	
	11月	4.2	1.6	5.3	2.0	0.6	0.4	1.8	0.8	3.1	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 3.9	
	12月	4.4	0.3	5.4	0.5	1.3	0.4	0.7	0.6	0.9	0.3	0.1	▲ 3.4	
06	1月	5.3	4.0	7.4	3.1	▲ 0.4	2.4	▲ 2.3	▲ 2.8	▲ 0.9	▲ 4.1	0.3	▲ 3.2	
	2月	5.5	▲ 2.7	6.9	▲ 2.0	1.1	▲ 1.4	▲ 1.6	▲ 1.9	0.3	▲ 3.3	1.2	▲ 2.4	
	3月	3.3	▲ 5.1	3.9	▲ 6.8	1.0	▲ 0.3	0.1	▲ 0.3	1.8	▲ 1.8	0.7	▲ 2.6	
	4月	4.1	5.6	5.6	7.4	▲ 0.8	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 0.9	▲ 0.4	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 5.0	
	5月	6.8	0.0	9.1	0.3	0.1	0.6	▲ 0.9	▲ 1.6	▲ 1.2	▲ 1.9	0.2	▲ 2.9	
	6月	5.1	▲ 0.1	6.5	▲ 0.3	0.2	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 1.2	▲ 1.9	▲ 0.7	3.2	0.6	
	7月	5.1	0.7	6.7	1.3	▲ 0.1	▲ 1.6	▲ 1.0	▲ 1.4	▲ 1.4	▲ 1.3	▲ 2.4	▲ 5.2	
	8月	6.0	2.1	7.5	2.5	1.1	1.7	0.6	0.1	▲ 0.8	0.7	0.8	▲ 1.8	
	9月	4.2	▲ 4.4	5.1	▲ 5.6	0.7	▲ 1.5	0.8	0.8	1.3	0.4	▲ 0.8	▲ 3.4	
	10月	6.5	4.3	8.4	5.8	0.1	▲ 0.2	▲ 1.7	▲ 1.7	▲ 2.0	▲ 1.4	2.0	▲ 0.6	
	11月	4.2	0.0	5.4	0.0	▲ 0.1	0.1	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 0.2	▲ 1.1	1.0	▲ 1.5	

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

○ コンセンサスを下回る

本日、経済産業省より2006年11月の商業販売統計が公表された。小売業販売額は前年比▲0.1%と前月（同+0.1%）からやや悪化し、コンセンサス（+0.5%、レンジ▲0.2%～+0.8%）を小幅下回った。季節調整値では前月比+0.1%となっている。また、大型小売店販売額は前年比▲0.7%（既存店）と前月からマイナス幅を大きく縮小させ、季調済み前月比（全店）も+2.9%と増加した。業態別では、百貨店販売額は前年比▲0.2%（10月同▲2.0%）、スーパーは同▲1.2%（10月同▲1.4%）と特に百貨店でのマイナス幅縮小が目立っている。コンビニエンスストア販売は前年比▲1.5%（既存店）と、依然としてマイナス圏での推移が続いている。

○ 飲食良品の不振が押し下げ

堅調な結果だった家計調査とは異なり、販売側の統計である小売業販売額は前月からほぼ横這いと、事前予想から下振れた。少なくとも商業販売統計からみる限り、個人消費が明確に改善しているとは言い難い。内訳を前月比でみると、各種商品小売業、織物・衣服・身の回り品小売業、機械器具小売業などは大幅に増加するなど、改善している業種がほとんどなのだが、ウェイトの大きい食料品小売業が落ち込んだことが足を大きく引っ張った。

もっとも、今月については、生鮮食品の値下がりや石油関連製品の価格上昇の鈍化などが販売額を押し下げている面もあるとみられる。実質化した小売業販売額をみると前月比+0.3%（10月同+0.6%）と小幅増加している。また、10-11月平均を7-9月期と比較しても+0.3%となっている。改善幅自体はかなり小さいと言わざるをえないが、低調に終わった7-9月期からは徐々に持ち直しているように見える。

○ 斑模様の個人消費

最近の個人消費はまさに「斑模様」の動きになっている。商業販売統計の中でも、百貨店は好調、スーパー、コンビニは不振、乗用車販売は低調だが7-9月期と比べれば持ち直し等、業種によって動きが大きく異なる。他の統計でも、家計調査は好調、外食は引き続き底堅く、消費者態度指数も改善している一方で、景気ウォッチャー調査は伸び悩むなど、まちまちとなっており、極めて分析者泣かせの状況だ。だが、こうした諸統計を平均的にみれば、10、11月を均せば夏場の消費不振の状況からは緩やかに持ち直しつつあるという姿が浮かび上がってくるように思われる。7-9月期の消費を押し下げた要因の一つであるガソリン価格や生鮮食品価格は一時期と比べて下落していることや、天候不順要因が既に剥落していることなどが寄与していると考えられる。

なお、2月15日頃に公表される10-12月期のGDPでは、家計調査の上振れもあって個人消費は高い伸びを示す可能性が高まっていることについては既報の通りである。

